

ニ希望ノ一端ヲ吐露スルノ微衷ニ外ナラス又本調査ニ際シ在佛小林砲兵少佐ノ努力頗ル大ナリ特ニ附記ス

第十二章 「タンク」及其ノ使用法

第一款 一般ノ状態

一九一六年九月ソナムノ攻撃ニ於テ英軍ニ依リ始メテ使用セラレ交戦國軍ハ勿論世界ノ軍事界ヲ驚カシタル新戦闘要具ヲ「タンク」トナス

爾來「タンク」ハ彼我兩軍ニ於テ盛ニ研究セラレ各種ノ様式ヲ考案製出シ殊ニ近比西部戰場ニ於テ偉大ナル活動ヲ爲シツツアルヲ見ル而シテ帝國陸軍ニ於テ採用セラルヘキ「タンク」ノ様式、構造等ニ關シテハ作戰地ノ地形、戦闘ノ方式、「タンク」ノ性質及用法等ニ付慎重ナル考慮討究ヲ重スルヲ要スルヲ以テ一概ニ其ノ利否ヲ決定スルコト難シ故ニ茲ニ參考ノタメ英佛兩軍ニ於テ使用セラレツツアル「タンク」ノ種類、「タンク」隊ノ編制及其ノ用法ニ付概述スル所アラントス蓋シ作戰ノ必要上此ノ種新武器ニ對スル不斷ノ研究ト英佛兩國技術ノ優秀トハ一日トシテ新案ヲ出ササルナク將來一層勢力優秀ナル「タンク」ヲ實現セシムルコト疑ヲ容レズ

第二款 英式「タンク」ノ種類及戰法

其一 「タンク」ノ種類

目下英軍ノ使用セル「タンク」ハ様式ノ變遷ニ伴ナヒ十二種ノ多キニ達セルカ如ク其ノ構造、様式ヲ異ニセル毎ニI. II. III. 等ノ記號ヲ附シ又其ノ記號毎ニ一連ノ製造番號ヲ附ス即チMark IIIノ第100號ト謂フカ如シ然レトモMark I. II. ノ如キ舊式ニ屬スルモノハ新ニ製造セラレサルハ勿論ナリ而シテ本年六月頃主トシテ戰場ニ使用セラレタルモノハIV. V. VI. VII. 號ナルカ如シ又近比ニ至リ後ニ記述スヘキ佛國式小型「タンク」ヲ試用シタリト聞ク

「タンク」ハ使用ノ目的ニ依リ左ノ三種ニ分類スルヲ得

- (1) 戦闘用「タンク」
- (2) 火砲運搬用「タンク」
- (3) 兵員及彈藥補給用「タンク」

一 戦闘用「タンク」

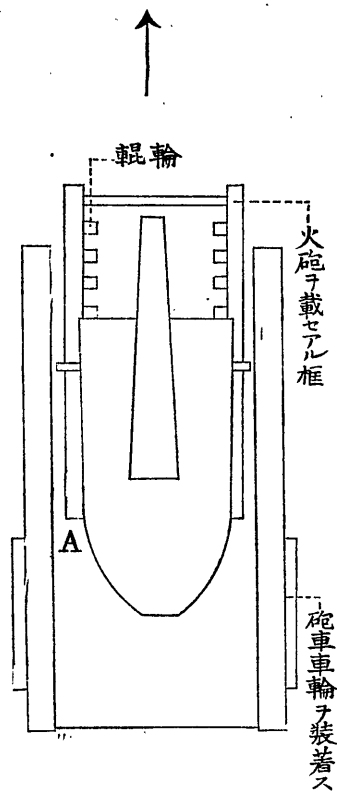
戦闘用「タンク」ハ小口徑砲及機關銃ヲ裝備シ戦闘ノ目的ニ使用セラル之ニ雄「タンク」(Male Tank)及雌「タンク」(Female Tank)ノ別アリ例ヘハMark VノMale Tankハ六封度砲(口徑約四十七密)二門及機關銃四挺ヲ備ヘ同號ノFemale Tankハ砲ヲ備フルコトナク單ニ機關銃六挺ヲ備フルカ如シ而シテ雄「タンク」及雌「タンク」ハ戰場ニ於テ相連繫シテ行動シ雄「タンク」ハ先ツ副防禦線ヲ突破シテ敵ノ機關銃等ヲ破壊シ塹壕内ノ守兵ヲ驅逐スルヲ努メ雌「タンク」ハ雄「タンク」ニ隨伴シ守兵ヲ掃蕩スルヲ任務

「タンク」及其使用法

トスト謂フ(英軍ニ於ケル「タンク」ノ用法參照)

二 火炮運搬用「タンク」

火炮運搬用「タンク」ハ敵少ノ下ニ在リテ火炮ヲ所望ノ地點ニ運搬進入セシムルヲ要スルトキ使用スルモノニシテ其ノ構造ニ種々アルモ小官倫敦滞在間實視シタル一例ハ次圖ノ如キ構造ヲ有シ五吋加農一門ヲ積載シ得ルモノナリ即チ火炮ハ「タンク」ノ前部ニ積載セラレ砲手ハ「タンク」内ニ掩護セラレテ前進シ所望ノ地點ニ達スレハ砲手ハ「タンク」ヲ出テ火炮ヲ射撃ノ姿勢ニ移シ戦闘ヲ開始スルナリ



註

一 火炮ヲ卸下又ハ裝載スルニハ框ノA端ヲ滑車ノ媒介ニ依リ鉤ヲ上クレハ框ハ卸下又ハ裝載ノ姿勢トナル例之ハ火炮卸下ノ場合ニハ火炮ハ輾輪ノ作用ニ依リ自然ニ降下シ適當ノ位

置ニテ車輪ヲ裝シ轉動砲架トナス

二 危急ノ場合ニハ積載ノ儘若干發ハ射撃ニ差支ナキモ火炮ヲ卸下シテ射撃スルヲ立前トス
上記ノ火炮運搬用「タンク」(Gun Carrying Tank)ハ牽引車トシテ使用スルヲ得此ノ場合ニ於テハ「タンク」ノ後方ニ中間車ヲ連結シ之ニ砲車ヲ連接ス此ノ中間車ハ轉回ヲ容易ナラシムル目的ニ供スルモノナリ

三 兵員及彈藥補給用「タンク」

兵員及彈藥補給用「タンク」ハ敵火ノ下ニ於テ兵員又ハ彈藥ヲ補充スル際使用スル目的ヲ以テ最新設計シタルモノニ屬シ Mark IX.ヲ附シアリ他種ノ「タンク」ニ比シ外形大ニ前方ニ唯機關銃一挺ヲ備フルノミ但側壁ニ數個ノ銃眼ヲ設ケ輸送セラレツツアル兵員カ所要ニ際シ小銃ヲ射撃シ得ルノ用ニ供ス説明者ノ談ニ依レハ此ノ「タンク」ノ積載重量ハ十噸ニシテ人員輸送ノ場合ニハ歩兵三十五名ヲ收容ス又此ノ「タンク」ハ「カタピラー」ノ經始ヲ多少異ニシ運搬ヲ主トセルヲ以テ難路通過ハ戰團「タンク」ニ比シ容易ナラスト

其二 「タンク」ノ移動裝置

英國軍「タンク」ノ移動裝置ニ三種アリ而シテ原動機ハ百五馬力「ダイヤモンド」發動機及百五十馬力「リカード」發動機ヲ專用ス(發動機ノ馬力ハ機式ノ改良セララルルニ從ヒ屢ニ變更アルモノノ如シ)又原動機ヨリ連結セル轉動裝置ハ

「タンク」及其使用法

(1) 通常ノ differential gear ヲ用ウルモノ

發動機ニヨリ發電機ヲ回轉シ此ノ電力ニヨリ

(2) 二個ノ電動機ヲ用ウルモノ

(3) 水壓裝置ヲ用ウルモノ

ノ三種ナリ

第一種

通常ノ牽引車ハ大差ナク「タンク」ノ中央ニ位置スル原動軸カ齒輪啮合ノ關係ニ依リ永轉軌道 (Catapiller) ニ連結スル左右兩車輪ニ各別ニ作用シ其ノ回轉ヲ各別ニ規正スルモノナリ

第二種

原動軸ハ「タンク」中央後部ニ在ル發電機ニ連絡シ此ノ發電機ハ「タンク」ノ前側方ニ在ル二個ノ電動機ト各別ニ連絡ス而シテ各個ノ電動機ハ各別ニ永轉軌道ニ連結スル左右兩車輪ニ連絡ス

「タンク」ノ中央兩側ニ各一個ノ電壓計及電流計ヲ備ヘ各別ニ其ノ側方車輪ト連絡セル電動機ノ電壓及電流ヲ示ス

構造此ノ如キカ故ニ今若シ此ノ兩側ノ電壓計及電流計ノ指針カ同一ノ分畫ヲ示ストキハ左右車輪ニ連結セル發電機及電動機ノ回轉數同一ナルトキニシテ「タンク」ハ直線行進ヲナスモ然ラサル場合ニ

ハ回轉運動ヲナスナリ

第三種

水壓裝置ヲ用ウルモノハ機關ノ原動軸ト連絡シ「タンク」ノ中央首線ニ沿ヒ左右兩側ニ二個ノ油ヲ用ウル水壓唧筒アリ此ノ水壓唧筒ハ各別ニ永轉軌道ト連絡スル左右車輪ヲ支配ス

水壓唧筒ニ依リ高度ニ壓迫セラレタル油ハ大速度ヲ以テ其ノ一方口ヨリ逃出ス而シテ逃出口ノ前方ニ恰モ「タービン」機關ノ羽ノ如ク作用スルFanアリ高壓高速度ノ油ハ之ニ衝突シ其ノ羽ヲ回轉セシム羽ノ回轉ハ傳動軸ノ作用ニ依リ車輪ヲ回轉セシメ以テ「タンク」ニ運動ヲ與フ又水壓唧筒ヨリ油ノ逃出口ニ當リ瓣アリ此ノ瓣ハ操縱席ニ在ル轉把ノ作用ニ依リ操作セラル

從ツテ左右ノ瓣力同一ノ狀態ニ在ルトキニ於テハ「タンク」ハ直線行進ヲナスモ然ラサルトキハ回轉運動ヲナスモノトス

其三「タンク」ノ主要諸元

「タンク」ノ運轉主要機關ハ上述ノ如シ而シテ帝國陸軍ニ於テ見本トシテ英國政府ヨリ購買セラレタル「タンク」ハ英軍ノ所謂Mark IVノ雌「タンク」ニシテ其ノ主要諸元ハ次ノ如シ

全備重量(附屬品共)

三一噸半

「タンク」ノ重量

二六噸四分ノ三

「タンク」及其使用法

二七一

1870

機關銃及彈藥ノ重量

一八「ハンドレッド、ウエイト」強(約〇、九噸)

「タンク」ノ長

二六呎半

同 幅

九呎

同 高

八呎四吋半

「カタピラー」ノ幅

一呎九吋

以テ英軍「タンク」ノ主要諸元ノ一例ヲ知ルヲ得ヘシ

英軍ニ於テハ更ニ大威力ノ「タンク」ノ設計中ニシテ(目下ハ既ニ試製ヲ了リタルナラン)小官本年六月中旬視察ノ際原物模形

ノ組立中ナルヲ視タリ

此ノ試製「タンク」ハ所謂戰闘用「タンク」ニシテ從來ノモノト異ナリタル所ハ武装ノ威力大ナルト機關室ト戰闘室トヲ區分シタルトニ在リ即チ機關ヲ「タンク」ノ後室ニ裝置シ操縦者ハ前室ノ前端ニ位置シ中央部ヲ戰闘位置トナス武装ハ十八「ポンド」野砲二門、二「ポンド」砲(口徑一吋半)二門又ハ三門竝機關銃六挺又ハ五挺ニシテ「タンク」ノ全周ヲ射撃シ得ル如ク配置セリ

主要諸元ハ當時尙設計中ナリシヲ以テ未タ確定セサルモ概ネ次ノ如シト謂ヘリ

發動機ノ馬力

三五〇馬力

最大速度

五哩

通常速度

三哩半(四種ノ速度
變換機アリ)

重量

三六噸

幅

九呎半

長

三二呎

即チ從來ノモノニ比シ頗ル大ナルヲ知ルヲ得ヘシ要スルニ英軍ハ最初ヨリ大「タンク」主義ニシテ今尙繼續シツアルモ既ニ述ヘタルカ如ク佛國小型「タンク」ニ類似ノモノヲ試製セリト謂フヲ以テ考フレハ將來ノ方針ハ如何ニ變更スルヤ否ヤ調査ヲ要ス

英國陸軍省「タンク」司令部附「マシユー」ラノーウエ「大佐」ノ談ニ依レハ英軍「タンク」ノ行動半径ハ當初約十哩ニ過キサリシモ近比製造ノモノハ約二十哩ニ達シ尙四乃至五時間ノ行動持續力ヲ有スルニ至レリト謂フ

其四 英軍「タンク」隊ノ編制及用法

「タンク」隊ノ如キ新戰鬪武器ノ編制ハ目下尙實驗途中ニ在リテ未タ確定シタルモノニアラス戰鬪ノ實驗ト武器ノ改良ニ伴ナヒ屢々變更スルモノナルヲ以テ次ニ述フル所ハ本年六月中旬ニ於ケル英國陸軍當局者ノ談ナルコトヲ記憶スルヲ要ス

既ニ述ヘタルカ如ク英軍ニ於テ「タンク」ヲ使用シタルハ一九一六年九月ヲ以テ嚆矢トシ而モ當時ノ隊數

「タンク」及其使用法

ハ僅ニ四中隊ニ過キサリシ其ノ後制式ヲ改良シ一方ニ於テハ大ニ製造ヲ急キ一九一七年中頃ニハ九大隊ト爲リ一九一八年六月ニハ戰場ニ於ケル使用數十五大隊ニ達シツツアリ

「タンク」一中隊ハ十二輛ヨリ成リ之ヲ三輛宛ノ四小隊ニ區分ス各小隊ハ雄「タンク」一輛、雌「タンク」二輛ヨリ成ル但雄一、雌二ノ配合ハ近時ノ實驗ニ依レハ雄ノ力ヲ要スヘキ場合多キヲ以テ近キ將來ニ於テ各小隊ヲ雄雌各二個ヨリ編成スル如ク計畫中ナリ又此ノ場合ニハ攻撃ニ際シ雄「タンク」ノ一個ハ一時豫備トシ第二線攻撃ニ際シ時機ヲ失セス前進セシムル如ク使用スル筈ナリト謂ヘリ

大隊ハ三中隊ヨリ成ル故ニ現編制ニ於テハ「タンク」一大隊ハ三十六輛ヨリ成ルモノトス

目下戰場ニ有スル十五大隊ノ「タンク」中、重「タンク」(Heavy Tank)十二大隊、輕「タンク」(Light Tank)三大隊ナリ因ニ英軍ノ採用シツツアル「タンク」ニ重輕ノ二種アリ重「タンク」ハ斷面大ナル壕ヲ超越シ得ルモ彈痕多キ地ニ於テ運動頗ル困難ナリ即チ頭部ヲ彈痕内ニ突入シ運動不可能トナルコト屢、ナリ輕「タンク」ハ重「タンク」ト佛國小型「タンク」トノ中間ニシテ不正地ニ於ケル運動ニ適ス但輕重共各雌雄ノ別ヲ有スト謂フ

各「タンク」ニハ將校ヲ以テ長トシ兵卒七名ヲ配屬スルヲ通常トス

「タンク」ノ戰術的用法トシテ同大佐ノ談多少參考トナスヘキモノアリ其ノ要旨ヲ略述セハ次ノ如シ(圖次參照)

一 攻撃

「タンク」隊ノ輸送ハ列車ニ依ル而シテ成シ得ル限リ前方適當ノ地點ニ集合セシム此ノ集合地ハ空中觀測ヲ困難ナラシムル爲森林内ヲ良トス

攻撃準備ノ爲「タンク」中隊ヲ開進ス其ノ地點ハ敵線ヲ距ル約三(四)千米ノ後方ニシテ成ルヘク森林内ヲ選定ス但何レノ場合ニ於テモ「タンク」ノ運動ハ夜間ニ限ル

通常攻撃實施ノ前夜ニ於テ「タンク」小隊ヲ更ニ攻撃準備ノ位置ニ前進セシム此ノ地點ハ音響ノ關係上敵線ヲ距ル千米以内ニ進出スルハ危險ナリ

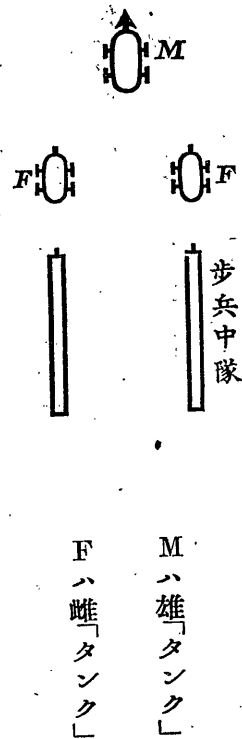
攻撃實施ノ爲各中隊ハ攻撃地域ヲ明知シ更ニ之ヲ各小隊ニ分配ス中隊ノ配當正面ハ敵情、地形等ニ依リ變化スレトモ通常一中隊ノ爲三(四)百米ヲ適當トス但時トシテ八百米ニ達シタルコトアリ

「タンク」攻撃成功ノ秘訣ハ敵ノ不意ニ乘スルト各將校殊ニ小隊長及「タンク」長カ前方ノ地形ヲ熟知スルトニ在リ之カ爲ニハアラユル手段ヲ講スルヲ要ス若シ攻撃準備ニ先チ後方適當ノ地形ヲ選ミ實

地ニ豫定行動ヲ練習シ殊ニ歩兵トノ連繫ヲ確實ナラシムル如ク演練スルヲ得ハ更ニ妙ナリ

攻撃實施ニ方リテハ次圖ノ如キ隊形ヲ以テ目標ニ向ヒ直進ス此ノ際雄「タンク」ハ歩兵ヲ伴ハス雌「タンク」ハ通常歩兵一中隊ヲ直後ニ追隨セシム雄「タンク」鐵條網線ニ達スレハ遲疑スルコトナク突進シ第一散兵壕ヲ超越シ銃砲火ヲ以テ壕ヲ掃射ス此ノ時通常壕ニ沿フテ行動ス雌「タンク」ハ一時鐵

「タンク」及其使用法



二七六

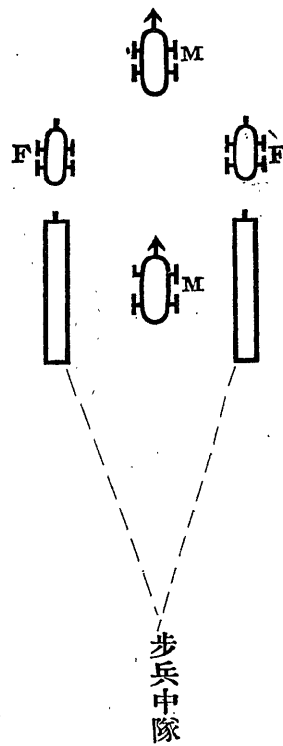
條網直前ニ停止シ前方ノ狀況ヲ監視シ雄「タンク」ノ掃射ヲ始ムルヤ直ニ突進シ突撃路ヲ開クト同時ニ雄「タンク」ノ射倒セサリシ敵兵ヲ機關銃火ヲ以テ掃射シ以テ隨伴歩兵ノ陣地占領ヲ容易ナラシム此ノ時機ニ至レハ雄「タンク」ハ更ニ前進ヲ續行シ第二目標ニ突進ス我歩兵第一散兵壕ニ進入スルヤ雌「タンク」ハ雄「タンク」ニ追隨前進ス雄「タンク」ハ我歩兵ノ前進ヲ妨害スヘキ敵ノ機關銃ヲ砲火ヲ以テ撲滅スルヲ計リ雌「タンク」ハ雄ト協力シ敵歩兵ヲ掃射スルヲ以テ專一ノ任務トナス

「タンク」ニ對シ最モ危險ナルハ敵ノ砲火ナリトス故ニ「タンク」ハ敵彈掃射地域内ニ在リテハ瞬時モ停止スルコトナク絶ヘス行動シアルヲ要ス

「タンク」小隊ヲ雄雌各二個ヲ以テ編制スル場合ニ於テハ次圖ノ如キ隊形ヲ以テ前進シ前進雄「タン

1875

ク」カ第一陣地ノ掃射ヲ行ナヒツツアル間ニ他ノ雄「タンク」ハ第二ノ目標ニ向ヒ突進シ前進「タンク」ノ援助ヲ爲サシムルヲ主要ナル目的トス



攻撃ノ場合ニ於ケル「タンク」ノ用法トシテ英軍當局者ノ談レル所上記ノ如シ之ヲ後ニ説述スヘキ佛國ニ於ケル用法ト對照セハ多少趣ヲ異ニセルヲ見ルヘシ其ノ主要點ハ歩兵ト「タンク」トノ關係ナリトス

二 防禦

防禦ニ於ケル「タンク」ノ用法ハ原則上次ノ三項ニ歸著ス

- (1) 敵ノ「タンク」ヲ拒止ス (To stop enemy's tank)
- (2) 敵ノ前進歩兵ニ對シテ急遽ニ逆襲ヲ行フ (To make immediate counterattack against advancing enemy.)

「タンク」及其使用法

(3) 敵ノ本隊ヲ攻撃ス (To attack main body.)

而シテ敵兵我第一線陣地ヲ突破シ將ニ進出セントスルノ時機ハ防禦ニ於テ「タンク」ヲ使用スル最好
 機ナリ待機ノ守者「タンク」ハ此ノ時機ニ乘シ逐次ニ逆襲ヲ行ナヒ敵ニ大損害ヲ與ヘ退却ノ止ムナキ
 ニ至ラシム此ノ方法ニ依リ成功シタル適例ハアルバート地區ニ於テ實現セリ即チ第一線ヲ突破シ第
 二線攻撃ノ爲地形ヲ利用シ隊伍ヲ整頓シツツアル敵ニ乘シ英軍「タンク」一中隊ハ側面ヨリ逆襲シ三
 大隊ノ歩兵ヲ殆ント全滅セシメタルコト是ナリ。

以下佛軍ニ於ケル「タンク」ノ概況ヲ述ヘシ

第三款 佛式「タンク」ノ種類及戰法

佛軍ニ採用セル「タンク」ニ三種アリ「サン、シャモン」式、「ジュナイデル」式及「ルノー」式是レナリ「サン、
 シャモン」式ハ重量最大ニシテ所謂大型重「タンク」ナリ「ルノー」式ハ小型ニシテ近時專ラ稱用セラルル
 モノニシテ「ジュナイデル」式ハ前兩者ノ略、中間ニ屬ス

其一「タンク」ノ主要諸元

各種「タンク」ノ主要諸元次ノ如シ

一「サン、シャモン」式

重量

二三噸五〇〇

1877

馬力

九〇馬力

運轉裝置

電動機二個ヲ備ヘ左右ノ兩輪ニ各別ニ連絡作用シ以テ「カタピ
ラー」ニ運動ヲ傳フ

長

八米

装甲ノ厚

一七糎

超越シ得ヘキ壕ノ幅

二米乃至二米五〇〇

速度

約八糎

武裝

野砲 一門
機關銃二門

地上一平方瓏米上ニ分配セル重量 約一瓏

二「シユナイデル」式

重量

一三噸五〇〇

馬力

四〇馬力

長

六米二〇〇

〔前部一糎

「タンク」及其使用法

装甲ノ厚

後部八 耗
下部五 耗

超越シ得ヘキ壕ノ幅

一米七〇〇

速度

約八 耗

武 装

短野砲一門
機關銃二門

地面一平方珊米上ニ及ホス重量

五〇〇 珎

斯式、參式共鐵道運搬自在ナリ又小森林ハ通過容易ニシテ且三〇乃至四〇「プロセント」ノ傾斜地ヲ

昇登シ得ルモ濕地ノ運轉ハ不可能ナリトス

三 「ルノー」式

重 量

六噸五〇〇

馬 力

一八馬力ヲ規定トセルモ事實三〇乃至四〇馬力ヲ出シ得ト稱ス

長

四米一〇〇

高

二米二〇〇

幅

二米〇〇〇

装甲ノ厚

「ニッケル」鋼板ニシテ主要部十六耗ニシテ部位ニ應シ十三耗、
八耗及六耗トナス

超越シ得ヘキ壕ノ幅

一米五〇〇

速度

第一速度一籽五〇〇
第二速度三籽〇〇〇
第三速度五籽〇〇〇
第四速度七籽八〇〇

但通常ハ第三速度ニテ運行スルモノトス

武装

雄雌ノ別アリ
（雄「タンク」ハ三十七密砲一門、
雌「タンク」ハ機關銃一門

人員

二名（一名ハ長兼砲手ニシテ一名ハ機關手トス）

行動時間

普通速度ニシテ最大限一〇時間

「ガソリン」ノ使用量

一時間一〇乃至一二「リットル」

携行彈藥

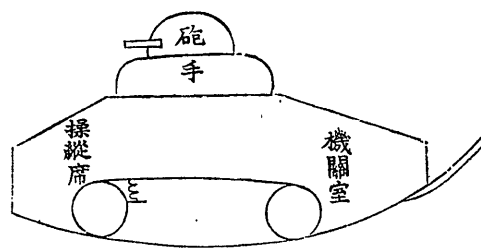
三十七密砲二三七發

機關銃 四八〇〇發

「タンク」及其使用法

「ルノー」式「タンク」ハ次圖ノ如キ外形ヲ有シ小官巴里滯在間及佛軍第四軍視察中同「タンク」ノ運動ヲ實視セルニ散兵壕又ハ彈痕ノ通過、某程度マテノ斜坂ノ昇登共ニ自由ニシテ行動輕捷ナルヲ感知セリ帝國陸軍ニ於テ「タンク」研究上大ニ參考トナスニ足ル

二八二



其二 佛軍「タンク」隊ノ編制及用法

本年八月小官佛第四軍正面視察中第四軍司令部所在地タル Chalons ヲ距ル西南方約四十軒ナリ (Camp

Mally)ニ於テ「タンク」隊ノ演習ヲ實視シタリ此ノ際聞知シタル所次ノ如シ但同地ハ佛軍「タンク」旅團司令部ノ所在地タリ

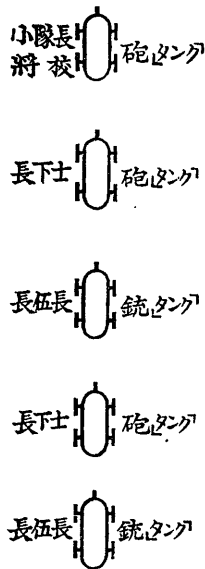
一 佛軍ハ「タンク」旅團ヲ有ス

二 「タンク」旅團ハ三聯隊ト大修理場ヨリ成ル

三 「タンク」聯隊ハ輕「タンク」三大隊ト重「タンク」一大隊及移動修理班ヨリ成ル而シテ輕「タンク」ハ「ルノー」式ニシテ重「タンク」ハ專ラ斯式ヲ採用シアリ

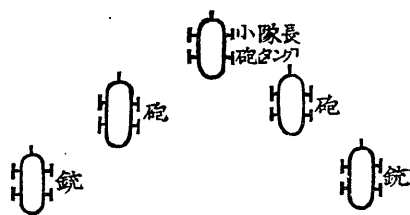
四 輕「タンク」一大隊ハ三中隊ヨリ、中隊ハ三小隊ヨリ、小隊ハ砲「タンク」三輛、機關銃「タンク」三輛計五輛ヨリ成リ外ニ中隊ニ豫備「タンク」五輛修理用「タンク」二輛ヲ、大隊ニ無線電信「タンク」三輛ヲ配屬ス故ニ輕「タンク」一中隊ハ二十一輛ノ、一大隊ハ六十六輛ノ「タンク」ヲ有ス

五 輕「タンク」小隊ノ行軍隊形ハ次圖ノ如ク



「タンク」及其使用法

其ノ戰闘隊形ハ次圖ノ如シ



六 重「タンク」大隊ハ四中隊ヨリ成リ中隊ハ目下重「タンク」四輛ヨリ成ル

「タンク」ノ用法ニ關シ「タンク」大隊長ノ談話要旨次ノ如シ

「タンク」ヲ攻撃ニ使用スル場合ニハ歩兵一大隊ニ輕「タンク」一小隊ヲ配屬スルヲ通常トス而シテ此ノ小隊ハ歩兵大隊長ノ指揮下ニ屬ス英軍ニ於テハ「タンク」ハ特種兵器中ノ特別ノモノナルカ故ニ之ヲ歩兵隊長ノ指揮下ニ入ルコトナク協同動作ノ完全ニ依リ目的達成ニ努メシムト謂ヘリ是レ兩軍ニ於テ意見ノ異ナル所ノ一ナルカ如シ

「タンク」小隊ノ目的ハ陣地ノ鎖鑰又ハ機關銃ノ位置ヲ發見セハ之ヲ擊破シ歩兵ノ進路ヲ開クヲ主任務トナス故ニ一陣地攻撃毎ニ目前ノ任務ヲ達成セハ若干後方ニ位置シ常ニ突進ノ準備ヲナシ待機ノ姿勢ニ移ル更ニ「タンク」前進ノ必要アルトキハ歩兵大隊長ハ命令ヲ以テ之ヲ招致シ新任務ヲ達成セシム換言セハ歩兵ハ戰鬪ノ主宰者トシテ陣地占領ノ自任大ナラサルヘカテサルカ故ニ「タンク」ニ依頼スルコト過大ナルヘカラス已ムヲ得サル場合ニ之ヲ使用スルヲ立前トナセリ此ノ點ハ英軍「タンク」用法ト多少異ナル所ノ一ナルカ如シ注意ヲ要ス

「タンク」隊ヲ指揮スルニハ砲塔ノ頭部ヨリ小旗ヲ出シ記號ヲ以テ號令ス然レトモ其ノ記號ハ實施ノ困難ヲ慮リ僅ニ三種ヲ設ケアルニ過キス即チ次ノ如シ

旗ヲ立ツ

余ノ行動ニ倣ヘ

旗ヲ上下ス

縦隊トナレ

旗ヲ左右ス

横隊ヲ作レ

大隊以上ニ在リテハ無線電信「タンク」(通信車ト稱ス)ヲ有スルヲ以テ通信連絡比較的困難ナラスト聞ク

第四款 「タンク」ノ戰例及結言

「タンク」隊ノ戰例ノ若干ヲ調査スルニ其ノ概況次ノ如シ

一 一九一六年九月ソナムニ於テ英軍初メテ「タンク」隊ヲ使用セリ此ノ時敵兵ヲ驚カシメ全ク奇襲的

「タンク」及其使用法

效果ヲ以テ敵ノ歩兵聯隊ヲ降伏セシメタリ

二 一九一七年四月佛軍ハエーヌニ於テ「タンク」隊ヲ使用セリ此ノ際一部ノ奏效ヲ收メタルモ大體ニ於テハ失敗ニ屬セリト認ムルヲ得其ノ原因ハ主トシテ歩兵ノ協同十分ナラサリシト「タンク」ノ運動良好ナラサリシニ歸スルカ如シ但此ノ攻撃ニ於テ佛軍ハ敵ノ第一、第二陣地ヲ奪取後當時陣地ノ編成尙強固ナラサリシ第三陣地ノ攻撃及爾後戰果ノ發展期ニ「タンク」ヲ參加セシムルノ企圖ヲ有シタリシナリ

此ノ結果ニ鑑ミ爾來佛軍ハ「タンク」ト歩兵ノ協同動作ヲ演練シ且「タンク」ヲ遊動砲塔トシテ使用セントスル計畫ヲ立テタリ

三 其ノ後一九一七年五月及十月英佛軍ニ於テ使用シタルコトアルモ皆小攻撃ニシテ多少ノ成果ヲ收メ得タルニ過キス

四 一九一七年十月末英軍カンブレーノ攻撃ニ際シテハ約三百個ノ「タンク」ヲ使用セリ此ノ攻撃ハ豫メ砲火ノ準備ヲナスコトナク障壁射撃ニ次テ「タンク」ヲ前進セシメ歩兵之ニ續行シ同時ニ砲兵ハ我前進ヲ防害スヘキ敵砲兵ノ制壓ニ任シ此ノ如クシテ大ナル困難ナク第一、第二及第三陣地ヲ突破スルヲ得タリ此ノ成功ハ攻撃前ノ準備及演練共ニ十分ナリシ結果ナリシモ「タンク」ノ協同效力ハ沒却スヘカラサルモノアリ

五 其ノ後一九一八年八月英第四軍ノアラス方面急襲攻撃ニ際シ「タンク」ノ協同大ニ其ノ成功ヲ助ケ

タリト聞ク

今次ノ戰役ニ際シ不意ニ現出シ以テ各國軍事界ヲ驚カシタル「タンク」ノ構造及用法ノ大要ハ上記ノ如シ然リ而シテ此ノ新戰闘武器ニ關スル帝國陸軍ノ制式ハ各種ノ方面ヨリスル研究ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘ之ヲ決定スルヲ要スルハ勿論ナルモ小官ノ觀察ヲ以テセハ今次ノ歐洲戰場ニ於ケルカ如キ陣地戰ニ於テハ如何ニ肉彈攻撃ヲ主張スルトスルモ豫メ前進ノ途ヲ開カサレハ施スニ餘地ナシ砲兵ノ準備射撃ニシテ適切ナランカ或ハ障礙物ヲ破壊シテ歩兵ノ通路ニ途ヲ開ク敢テ難事ニアラスト雖長時間ニ互ル攻撃ハ適切攻撃ノ豫報トナリ延テ急襲ノ利ヲ占ムルコト能ハサルノ害アリ攻撃ヲ豫期シタル敵ニ對スル企圖ノ失敗ニ屬シタル例尠ナカラサルヲ見テ突撃路ヲ開設シ歩兵攻撃ノ通路ヲ開クニ何等カノ新武器ヲ求メントスルハ自然ノ歸趨ナリ吾人ハ絶對ニ「タンク」ヲ崇拜スルモノニアラサルモ此ノ目的ニ對シテ極テ有望ナル新武器タルヲ證言スルニ躊躇セサル者ナリ之ヲ要スルニ歩兵ハ戰闘ノ主宰者タル見地ヲ基礎トシ「タンク」應用ノ範圍ヲ決定スルコト緊要ナリ即チ障礙物ノ破壊、據點突破ノ補助トシテ此ノ新武器ノ制式ヲ研究セントスルニ在リ此ノ見地ヨリ推論セハ吾人ノ將來制定セントスル「タンク」ハ技術ノ許ス限り速度良好、掩護確實、目標低小而モ運動輕快ナルモノタラサルヘカラス之カ爲ニハ砲力ノ一部ハ犠牲トナスモ亦止ヲ得サルヘシ又製造上ノ見地ヨリセハ防楯鋼板ノ供給意ノ如クナルノ時期ニ達セハ民間造船所ヲ利

「タンク」及其使用法

用シ之ヲ製造スルコト敢テ困難ナラスト思考ス唯豫メ多少ノ研究ヲ積マシメ製造方式ヲ定メ器具機械ノ準備ヲ爲サシメ置カハ十分ナランカ些カ茲ニ卑見ヲ述フ

第十三章 今回ノ戰役ニ使用シツツアル主要兵器(第九乃至第十二章ニ記述シタルモノヲ除ク)

第一款 銃 砲

其一 小銃機關銃及自働小銃

小官英國滯在間「バアミンハム」小銃製造會社ヲ、佛國滯在間巴里市郊外「グラデアトル」工場及リオン市ニ在ル保式機關銃製造所ヲ視察シタリ何レモ開戰後ノ擴張著大ニシテ殊ニ「グラデアトル」製造所ハ戰前主トシテ自轉車及自動自轉車ヲ製造シツツアリシヲ自働小銃工場ニ變形シタルモノ又保式機關銃製造所ハ開戰直後リオン市ニ移轉シ工場ハ全部新築ニカカレルモノトス「バアミンハム」小銃製造會社ハ每週小銃一萬挺機關銃二千挺ヲ生産シ得ト稱シ「グラデアトル」ハ C.B.C. 式自働小銃最大製造力日製五百二十挺目下ハ日製約四百挺ナリニシテ主トシテ佛國陸軍ニ供給シ保式會社ハ月製機關銃二千六百挺、銃身交換修理約六千挺ト稱ス外ニ保式自働小銃ヲ製造シツツアリテ其ノ製造力ハ不明ナルモ目下專ラ米、佛兩軍ニ供給スト聞ク

小銃及機關銃ニ付テハ第二編米國視察ノ部ニ於テ述ヘタル所ト大差ナキヲ以テ之ヲ省略シ自働小銃ニ付若干其ノ概況ヲ略述ス